

令和2年度 2回会津若松市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和3年2月1日(月)
開会 午後1時30分 閉会 午後3時00分
- 2 場 所 教育委員会室(市役所栄町第二庁舎2階)
- 3 出席者 市長 室井照平
教育長 寺木誠伸
委員 松本健男
委員 秋月淳子
委員 一ノ瀬美枝
委員 林健幸
- 4 事務局出席者 教育部長 山口城弘
副部長兼教育総務課長 稲生豊彦
生涯学習総合センター所長 堀金靖
学校教育課長 山岸実
学校教育課主幹 吉川加代子
教育総務課副主幹 山内齊

- 5 協議題 (1) 新型コロナウイルス感染症の状況について
(2) 地域とともにある学校づくりについて
(3) GIGAスクール構想について
(4) その他

6 議事の概要

○開会

○会津若松市長あいさつ

○議事録署名人 松本健男委員、秋月淳子委員を指名

○協議内容

<議長：室井市長> 本日の協議題は「新型コロナウイルス感染症への対応について」、「地域とともにある学校づくりについて」及び「GIGAスクール構想について」の3件となっておりますので、ご意見等をお聞かせいただきたいと存じます。

まず、新型コロナウイルスの感染につきましては、本市においても、報道等にあるように連日のように感染者が出ており予断を許さない状況となっております。そのような中、小中学校においては、学校における新しい生活スタイルを取り入れ、教育委員と学校が一体となって様々な感染予防の取組を行いながら学校運営を行っている聞き及んでおります。

それでは、「新型コロナウイルス感染症の状況について」事務局から説明をお願いします。

一つ目の協議題は「教育関係施設の休業対応について」であります。緊急事態宣言が全国に拡大されてからは、学校以外の教育関係施設についても、休業等を余儀なくされたところですが、まずは、施設の休業等の対応について事務局から説明をお願いします。

<事務局> 「新型コロナウイルス感染症の状況について」説明

〈議長：室井市長〉 ただ今、事務局より説明がありました。

学校においては、様々な工夫をしながら感染予防に取り組んでいるとのことですが、取組について、ご質問などありましたら発言をお願いいたします。

(特になし)

〈議長：室井市長〉 特にご意見がなければ次に進みます。

では、次の協議題「地域とともにある学校づくりについて」に移ります。

学校運営協議会については、今年度、全ての学校に設置され、来年度からは義務教育学校がスタートするなど、地域とともにある学校づくりが始まったところであり、その活動状況等について報告をいただき、本市の課題でもあります児童生徒数の減少に伴う今後の学校のあり方について考えてまいりたいと思います。

それでは、事務局より説明をお願いします。

〈事務局〉 「(2) 地域とともにある学校づくり」について説明

〈議長：室井市長〉 ただ今、事務局より説明がありました。

ご意見ご感想があれば、ご発言をお願いいたします。

〈議長：室井市長〉 私から質問してもよろしいでしょうか。山形市立山寺小学校の事例の紹介がありましたが、山寺から山形市内まで通学しているのか。

〈教育長〉 山形市内から山寺に通っているものです。本市で例えれば中心市街地から大戸町へ通学しているような距離感と捉えております。

〈議長：室井市長〉 昨年度から学校運営協議会を設置し活動していることと認識していますが、活動状況としてはどのような感じなのか。

〈林委員〉 私も学校運営協議会の委員となっておりますが、コロナの影響もありあまり会議が開催できなかったということがあります。ただ、発言は活発に行われており、行事をどうしていくべきかなど、学校からの問に対して議論を重ねている状況です。学校運営協議会は、良い試みだと感じており慣れてくれば委員から意見が出てくると思います。私が住んでいる地区の学校運営協議会には、若い方も入っているので年代的にバランスは取れていますが高齢の方が多いように見受けられます。

〈秋月委員〉 私が住んでいる地区の学校運営協議会も同じで、先生方が忙しい中に委員が参画していくとなると、入っていくのが悪いのではないかと感じてしまうこともありましたが2年経ってみて、委員からも何かあったら頼ってくださいといった雰囲気となってきており距離が近づいたように感じており、現在も進めております。

〈松本委員〉 何度か運営協議会の会議の開催を重ねていくうちに、学校と地域との協働が生れていくのかなと感じておりました。第一中学校の運営協議会では1回しか開催できませんでした。年齢が高い方も多く、会議に集まっても何をやればいいのか分からないところがありましたが、ひとつずつ課題について議論しながら解決していけばいいのかなと考えています。何か参考になる具体例などを示してもらい、みんなで情報を共有して参考にしながら進めていけばいいと思います。

〈一ノ瀬委員〉 学校運営協議会については、温度差があるのかなと感じております。河東や大戸・湊など、学校や地域としての課題が明確なことは議論が進んでいるのかと感じております。

湊地区や大戸地区においては、具体的にどのような話まで議論が進んでいるのか教えてください。

〈事務局〉 学校運営協議会のひとつの役割として教職員の任用等について意見書を提出するということがあります。例えば大戸や湊の学校運営協議会から特認校についても是非進めて欲しいといった意見があれば考えていくことになります。学校のあり方懇談会では、構想として例えば1学年で児童生徒が5人いれば、それ以上の受け入れをしないとといった意見もあり、シミュレーションをしている意見がありました。

〈一ノ瀬委員〉 湊地区では、湖南地区の学校の視察を行ったと聞いているが、それは特認校ではなくて義務教育学校として目指しているものなのか。

〈事務局〉 湖南地区においては湊地区と課題が共通しており、義務教育学校といった発言はいただきました。

〈一ノ瀬委員〉 特認校ではなくて義務教育学校を想定しているといった感じでしょうか。河東学園のときのように、大戸地区や湊地区も周囲の理解を得ながら進めることができればいいと思います。教育委員会としてもサポートできるように考えていただきたいと思います。

〈議長：室井市長〉 河東地区においては、合併以前から統合の流れがあり中学校も同じ敷地内に完成し機が熟したものと感じている。大戸・湊地区についても児童生徒数の減少による危機感を感じており、大戸地区の黒森にはまだ子どもがいますが、闇川では50戸程度ありますが子どもがいないといった状況にあります。そのぐらいの状況なので学校をどうしていくのかというのは地域の課題だと思います。地域づくりの運動としては大戸の方が取組は遅かったのかもしれませんが、危機感は大きい。学校運営協議会ができたことにより地域づくりの運動についても進んできていると感じます。

〈林委員〉 特認校制についてですが、他の地区からも入って来て欲しいということになりますが、わざわざ遠い学校に通いたいというだけの学校のメリットがなければならぬのかと思います。特認校とする場合に、どうメリットを作っていくのかなどやメリットをどのようにPRしていくのが重要だと思います。

〈事務局〉 小規模校というところで、少人数であることから集団になじめない児童生徒や、地域の方も熱心なので、そういった地域の方々と一緒に魅力ある学校づくりをおこなっていくという部分などに魅力を感じて欲しいと考えております。

PRの方法としては、学区の見直しが必要になることもありますので、教育委員会で広報誌等を活用しながらお知らせしていきたいと考えております。

〈林委員〉 河東学園の時には直ぐに決まっていた感覚があるが、大戸区の特認校制度の導入については、もう少し時間がかかりそうな状況ですか。

〈事務局〉 義務教育学校に関しては設置にあたり県の協議等が必要となり指定の承認をいただくこととなりますが、学区の見直しについては教育委員会単位で変更が可能ですし、大戸小中学校を特認校として進めて欲しいというような意見が地域から挙げられてくれば、教育委員会としても進めていく方向で考えております。

〈松本委員〉 大規模校も児童生徒が減っており小規模になっていくことを感じている。子ども会など地域の活動も成り立たなくなっている。部活動なども同じで、人

数により競技も制限されてきてしまっているもので、これからは、大会に出れるように合同で実施するなど市としても工夫していく必要がある。

〈事務局〉 部活動については、現在、週末合同練習会というのを進めており、令和3年度には特に中学校に働きかけを行っていき、学校単位ではなく週末は合同で練習等を進めていく考えでおります。国としても令和5年度からは、地域で子どもたちを見ていこうという流れにもなってきており、本市においてもそういった取組を進めていきたいと考えている。

〈議長：室井市長〉 義務教育学校での学年構成については、4-3-2とか柔軟な学年構成を設定できるが、具体的にはどう考えているのか説明してください。

〈事務局〉 河東学園義務教育学校においては、例えば小学校5・6年生と中学校1年生の教育活動を厚くして、例えば小学校5・6年生での教科担任制を導入するとか、できる範囲ではありますが、小学校6年が中学校の部活動に参加していくとか、今までの小学校6年生と中学校1年生の大きな階段を、スムーズに連携していけるようなかたちを取っていければと思います。現在の河東においては、前期課程と後期課程を設けて、前期課程が小1から小6の6年間、後期課程が中1から中3までの3年間とすることで考えており、できるところから進めていきたいと考えております。

〈議長：室井市長〉 現実的には教室の数なども6と3で割り振っているもので、極端な変更は現場としても大変なのかなと思います。

〈議長：室井市長〉 大変、貴重なご意見をありがとうございました。
次の協議題に移ります。GIGAスクール構想について説明をお願いいたします。

〈事務局〉 GIGAスクール構想について説明

〈議長：室井市長〉 GIGAスクール構想について事務局より説明がありました。
市では、「スマートシティ会津若松」の取り組みを次のステージに進め、より利便性の高い暮らしをたくさんの市民の皆さんに実感していただけるよう「スーパージティ構想」に挑戦しているところでございます。
学校においても「GIGAスクール構想」の実現に向けて、児童生徒に一人1台のタブレット端末の整備を進めているところであり、子どもたちの資質や能力の向上を図ってまいりたいと考えているところであります。タブレット端末の家庭への貸出やインターネット環境をどうするかといった課題があるかと思っておりますので、ご意見などをお願いいたします。

〈林委員〉 環境づくりの面で、市でもスマートシティとして行っているもので、お金はかかりますが市内全域にWi-Fi環境を設置するとか、そういったICTの活用方法を市としても目指していくものが必要なのかなと思います。

〈議長：室井市長〉 目指すべき姿のひとつではあるかと思えます。通信環境については、民間の方での環境整備が進んできており、5Gの導入もを民間主導で進められているようで、いろんなアンテナを設置していくようです。通信については道路と一緒に混み合うと遅くなり繋がらないといったことになりますので、GIGAの費用でこんなにお金がかかるかと言われますが、みんなが一斉に繋いだときに線通信が駄目にならないように太い回線で外と繋ぐためには必要な経費となっております。Wi-Fi 6になれば、そういった事もなくなるような事も聞いております。

〈松本委員〉 オンライン授業など、コロナ禍で必要になると感じている。整備して慣れでもらうことが必要だと思うが、タブレットなどを使いこなすために教員の負担などは具体的にはどのようなものがあるのか。

〈事務局〉 アフターコロナと言われる部分で、これからのこどもたちにもICTに慣れることや整備していくことが必要なのかと思います。現在、学校などで負担になっていることとしてはどういったことがあるのか。

〈学校教育課長〉 教職員もICTに慣れている人ばかりではので、機器を使うことそのものが負担であったり、教材の準備をすることなども考えられます。現在、国の補助を受けながら支援体制を整えたいと考えており、進めているところであります。

〈議長：室井市長〉 現場の教員にとっては、新しいことを導入することは大変だと思います。予算要求でも上がってきている部分なので、できる限り対応してまいりたいと考えております。

〈一ノ瀬委員〉 家庭内におけるネット環境が整備されていない割合はどのくらいあるのか。また、有害サイトへのアクセス制限など、情報セキュリティ面でも課題があるかと思います。

〈事務局〉 アンケート調査によると約1割程度で家庭におけるネット環境が無いようです。情報セキュリティについては、情報モラルの問題が大きく、現在でもSNSでのいじめなどもありますので、家庭で使うことを想定した場合に、情報モラルの部分においては指導の部分も含めて非常に気を付けていかなければならないと感じており大きな課題であると認識しております。

〈一ノ瀬委員〉 家庭でタブレットを使用する場合は、特に制限することなく一般的な情報は見れてしまうことになるのか。

〈事務局〉 現時点において、タブレットの持ち帰りは考えておりません。しかし、休業時等に家庭学習などで使用することも視野に検討していかなねればならず、具体的にどのような対応にするのか、例えば時間の枠を決めるとか、アクセス制限をかけるかについては、今後検討していく課題であると認識しております。現在、ICT推進員を設置しており、オンラインでつないで課題の洗い出しや研修を進めているところです。

〈秋月委員〉 教員によっては、従来の黒板による授業の教え方が優れている方もいると思う。タブレット導入により教え方の面でマイナスが生じてはならないと思いますので、タブレットのいい所と従来の教え方のいい所を生かしながら現状に合わせた授業ができればいいと思います。

〈事務局〉 ご指摘の通りであり、これまで培われてきた教育のスキルの部分に加えてタブレットを活用していきたいと考えております。すべての授業において、タブレットに入れ替わるのではなく、これまでの教育で足りなかった部分、タブレットを使用することで効果的に教えられることという部分をタブレットで補っていくような授業としていきたいと考えております。

〈秋月委員〉 これまで教職員の皆さんが培ってこられた従来の教え方のいい部分を、タブレットの導入によって活かせなくなるとは困るなどと思います。

〈松本委員〉 先生によって教え方の差が大きく左右されるようになってしまうと感じて

おり心配である。タブレットの導入当初は、教育環境が変わったことによって、教えずらい部分もあるのかと思う。

〈秋月委員〉 先生によって得意とする部分を活かして、こどもたちにとっていい授業ができるようになればと思います。

〈林委員〉 パソコンばかり使って文字を書かなくなると、試験などで手書きになった場合に文字が書けないといったことがあるかと思う。手書きの必要性もあるので、その辺にも配慮して進めていっていただきたい。これまでノーメディアでやってこられた学校もあるのかと思うが、これからGIGAでタブレットを使わなければいけなくなった事での矛盾についてはこどもたちにも伝えていかなければならないと思います。スマホは駄目だけれどもタブレットは有りといったことになるので、小さいこどもには特に分かるように教えていっていただきたい。

〈議長：室井市長〉 現場では、様々な課題が生じていることが分かりました。教育長からまとめの言葉をいただければと思います。

〈教育長〉 GIGAスクール構想の導入に伴う課題については、委員の皆様からの意見のとおりで、教育のスキルによって評価が左右されてしまうなど、非常に難しいと感じています。ICT推進員を各校から出してもらっておりますが、ベテラン教員にも基本的に使えるようになってもらうことが大切で、若い教員をGIGAスクールの校内研修の主役として自覚を持たせてをフルに活用していきたいと思っています。タブレットに応じた特殊な教材が必要かと思っている方もいますが、優れた教え方をタブレットで共有して教えていくといった利用方法もあるかと思っています。

問題になるのが家庭学習ですけれども、例えば臨時休業になった場合に家庭にネット環境がない1割の方に対してルーターを貸し出すことについても検討をしています。日常的な家庭学習をオンラインで実施するという事は、モラルやセキュリティ面、健康問題などの課題がたくさんあります。タブレットの導入に伴う目の健康問題も大きな課題として捉えており、勉強のほかにゲームやSNSなどでタブレットやスマホを使うことに加えて、家庭学習もタブレットで行った場合には、必ず目の健康に影響が出てきますので、オンラインでの家庭学習というのは急いではいけないと感じております。

学校運営協議会について意見がありましたが、校長が外部の方に人事に関する問題まで入ってこられる仕組みに対して非常に抵抗を感じているところも正直あります。そういう考えが今は古いので、外部の意見を取り入れる仕組みがこれからは大切だということを説明させていただきました。校長のシンクタンクとして意見を頂きながら地域で子どもたちを育てていく、子どものエネルギーを地域で生かすといくこと進めていきたいと考えています。

〈議長：室井市長〉 一定の議論を重ねてよりより活用の方法をしていっていただきたいと思います。

それでは、本日、タブレット端末を用意してのデモンストレーションを予定しているの、どのようなものなのかデモをお願いいたします。

〈事務局〉 [タブレットのデモンストレーションを実施]
(タブレットドリル、ジャムボード)

〈議長：室井市長〉 ありがとうございます。

それでは、最後にまとめといたしまして、各委員会からご意見、感想などをいただきたいと思いますのでお願いいたします。

〈一ノ瀬委員〉 学校でもICT化が進んでおりますが、仕事柄、民事訴訟についてもIT化が進んでおり、使いこなせないと取り残されて生きていけないなど実感しております。今後社会で生きていくうえでは、こどものうちから慣れていくということが必要なのかと感じます。先生達も大変ですが、私としては保護者への教育も必要になると感じており、学校としてどこまで対応できるのかなという部分を研究しながら進めていっていただきたいと思います。

〈松本委員〉 人口減少にも歯止めをかける必要があります、それに対する対応も進めていかないといけないと思います。学校運営協議会などが、これからの学校のスタイルなどについても様々なかたちで話し合いを進めていければと思います。

今ほどタブレットを使わせていただきましたが、先生によって差が出そうなのかなと感じましたので、それについてもきちんと対応していく必要があるのかと感じました。

コロナの対応において、本市において現時点での対応は良いと思うが、会津地域において、学校でクラスターが発生した際に、学校に出入りするクリーニング業者に情報が入らなかったということを耳にしました。市でも学校でも、関係する業者に対しても可能な限り情報を出していただければと思います。

〈議長：室井市長〉 学校に限らず施設などの福祉関係においても、同様のケースがあるかと思いますが、感染を拡大させないように市としても施設を持っている部署には対応を徹底させていきたいと思っています。

〈秋月委員〉 新しい生活様式など、新しいことに目を奪われていくし、目を向けなければならぬといけれども、古いものを見直して再発見をしながら、再評価をしながら教育活動が進んでいくことを切に望みます。

〈林委員〉 新しいものによって変わっていくのは当然であり、会津だけではなく全国で同じような状況ですので、これから首都圏や大都市に負けないように進めていただければと思います。そのためには、いろいろと変えていくことも大切ではないかと思えます。

〈教育長〉 タブレットについては、子どもたちが必要な場面でツールとして使えるように学校では使える機会を与えていかなければならないと思います。高校生になってから自ら調べ物が必要になったときなどに有効に活用でき、社会に出ても使えるように、学校では出来るだけ使用頻度を高めていきたい。昔からコンピューターを使った学習はずっとあったけれども定着になかなか繋がらないといった課題があった。定着にどう繋げていくのか、教育委員会でもじっくりと研究していかなければならないと考えています。

○閉 会